

ナブテスコグループ  
CSR報告書2012

**Nabtesco**



「ナブテスコは、独創的なモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供します。」  
との企業理念に基づき、ナブテスコグループではさまざまな活動を行っています。

こうした活動について、2011年よりCSRレポートを発行し、CSRに対する当社の考え方や活動内容を一括して報告しています。

今年で、2回目の発行となる「ナブテスコグループ CSR報告書2012」は、  
代表取締役社長の小谷和朗が、私どもの企業理念、長期ビジョン、ナブテスコの約束に基づく  
当社の経営の考え方や方針について報告しています。

さらには、当社の経営の考え方や方針を実現するための各ステークホルダーの皆さまに対する活動について、  
「価値ある商品・サービスの提供」「経営の透明性の確保」「社員への配慮」「環境への配慮」「経営体制」に加え、  
当社の取引先とのCSR活動について「公平・公正な企業活動」の誌面を拡充させて報告しています。

2012年9月



#### 報告対象範囲

原則としてナブテスコ株式会社の取り組みを報告していますが、一部の取り組み内容は、国内外グループ企業の実績も含まれています。

#### 報告対象期間・サイクル

基本的には、2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)の取り組みを報告していますが、活動内容は一部過年度と2012年度も含まれます。

#### 参考としたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)  
「持続可能性報告ガイドライン(第3版)」

#### 本報告書に関する問い合わせ先

ナブテスコ株式会社 総務・人事本部 総務部  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目  
7番9号 JA共済ビル  
TEL: 03-5213-1133(代表)  
FAX: 03-5213-1171(代表)

## INDEX

ごあいさつ	3	05 公平・公正な企業活動	21
01 価値ある商品・サービスの提供	5	06 経営体制	22
02 経営の透明性の確保	9	企業情報	25
03 社員への配慮	10	GRI ガイドライン対照表	26
04 環境への配慮	14		

# ごあいさつ



ナブテスコ株式会社  
代表取締役社長

小谷 和朗

世界経済においては、これまで牽引役を果たしてきた中国など新興国の成長が鈍化し、欧州諸国の債務危機問題が深刻化しております。また、わが国経済におきましても、円高定着による輸出企業への影響、電力供給不足への懸念、個人消費の低迷など依然として厳しい状況が続いております。

このような不透明な経済情勢の中、ナブテスコグループは、2012年度に新長期ビジョンを策定しました。2020年度の目指すべき姿として、「グローバルに成長し続けるベストソリューションパートナー」を掲げています。2020年度までの新長期ビジョンを策定し、世界規模での社会的課題の解決を意識しながら新しいソリューション（製品・サービス・ビジネスモデル）を社会に提供することにより、経済と社会のさらなる発展に貢献したいと考えています。

## 事業活動を通じてのCSRの実践

ナブテスコは企業理念である「移動・生活空間に安全・安心・快適を提供する」を実現することがCSRの実践に通じると考え、さまざまな企業活動を行っています。環境に配慮した製品群として、船舶の低NOx排出を実現する電子化エンジン向け機器、風力発電用駆動装置、太陽熱発電向け太陽追尾駆動装置、室内の空調効率向上に配慮した自動ドアシステム、また、利用者の安全に配慮した鉄道駅用プラットフォームの開発など、事業を通じての取り組みはもとより、環境や福祉といった分野においても積極的に活動しています。

## 環境への取り組み

ナブテスコは、「地球環境への配慮」、「地域と文化との調和」を経営の最重要課題と捉え、具体的な活動指針としてナブテスコグループに共通の「環境理念」と「環境行動指針」を制定しています。これをもとに製品や事業活動に関わる環境負荷の低減、環境改善を積極的に推進し、持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

## 社会とのかかわり

ナブテスコは最先端の制御技術を応用して、福祉介護機器の分野において、常に使う人の身になった思いやりのある商品を開発し提供しています。

「Enjoy the Challenge」という長期ビジョンの合言葉のもとに、信頼性の高い技術・製品を通じて、さらなる企業価値の拡大、CSRの推進に努めてまいります。

## 企業理念

ナブテスコは、独創的なモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供します。

## ナブテスコの約束

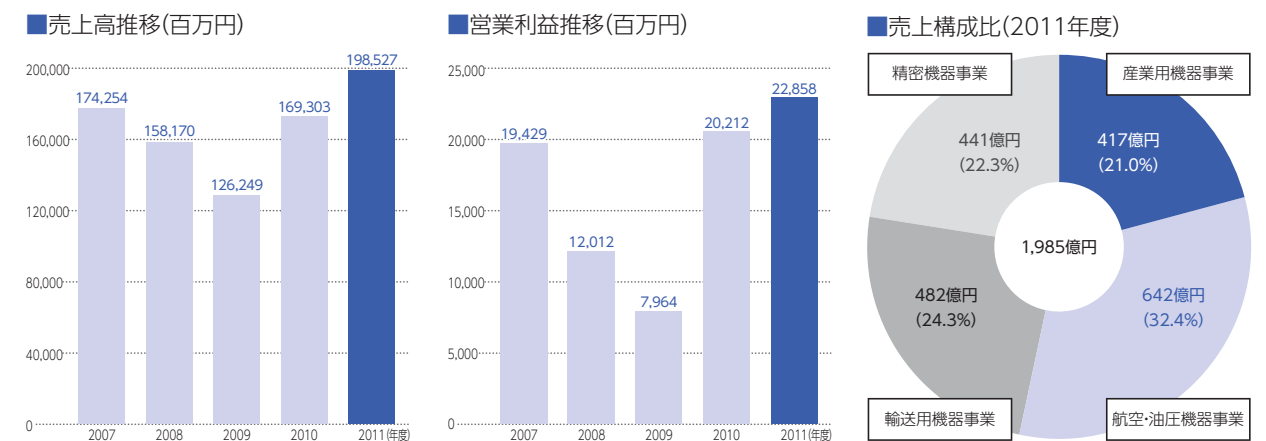
1. 世界のお客さまとの親密なコミュニケーションを大切にします。
2. 一人ひとりのチャレンジ精神と変革意識を大切にします。
3. 利益ある成長を続けます。
4. 高い透明性と倫理観を持ち続けます。
5. 地球環境に配慮し、地域・文化との調和を図ります。

## 新長期ビジョン（2020年度の目指す姿）

グローバルに成長し続けるベストソリューションパートナー

- 新しいソリューション（製品・サービス・ビジネスモデル）を社会に提供し続けている。
- たゆまぬ技術革新により、顧客に頼られる専門性を追求している。
- 言葉・文化の違いを越えてオープンなコミュニケーションと自由な発想を尊重している。
- 「Enjoy the Challenge」を合言葉に社員一人ひとりが積極的にチャレンジしている。

## 業績データ（連結）



# 01

## 価値ある商品・サービスの提供

社会基盤の一端を担う企業として、安全・安心・快適にこだわった商品・サービスを提供し、お客さまの信頼に応えます。

### 人や物の移動

### 人々の日常生活 福祉・医療関連



## 企業理念

ナブテスコは、独自のモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供します。

### 移動における安全・安心・快適

### 生活空間における安全・安心・快適

## 油圧・空圧機器

## 電動 機器

# 01 価値ある商品・サービスの提供

## 『安全・安心・快適』を製品に込める！

ナブテスコグループでは、お客さまとの長期にわたる信頼関係の中で、お客さまと一緒に市場創造・製品開発・製品安全に取り組んでまいりました。また、製品自体はもちろんのこと、製品を購入されるお客さま、製品を利用・使用される方々の「安全・安心・快適」を実現できるよう、実際の使用条件・使用環境に関する情報を収集・分析し、実際に必要な安全性・信頼性・安定性と機能・性能による快適性を求め、『ものづくり』に役立てています。この結果、技術的に難しい様々な分野で、独創的なモーションコントロール技術を生かしたシェアNo.1の価値ある商品・サービスを提供できるようになりました。

今後も、製品のライフサイクル全般にわたる「安全・安心・快適」の提供に向け、たゆまぬ努力を続けてまいります。

## ナブテスコグループ品質・PL\*方針

ナブテスコグループは、様々な分野・市場へ専門性の高い製品を提供するメーカーとして、製品の機能・性能がもたらす快適とともに、安全・安心を製品に込めて世の中に送り出すことがCSR上の大きな使命であると認識して「ナブテスコグループ品質・PL方針」を定めております。

\*PL: 製造物責任

安全・安心・快適で信頼性の高い製品の提供を通じて、企業の社会的責任を果たしていくため、

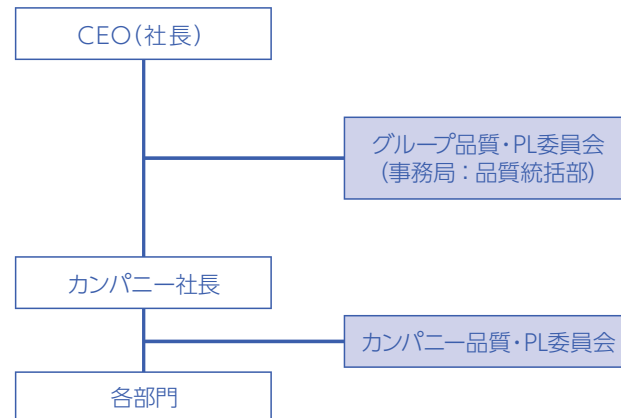
1. 人間尊重の理念に基づき、安全を全てに優先させる
2. 事業活動と一体の品質・PL管理活動により、安全性を含む製品の品質を確保する
3. 製品の市場提供に先立つ安全性を含む品質評価により、市場が納得する製品品質を実現する

## グループ品質・PL委員会による推進体制

お客さまや製品を利用される方々の声に耳を傾け、変化していく社会的な要求や要請にお応えできるように、品質工学・品質管理・PL管理（製品安全管理を含む）を踏まえた『ものづくり』を、当社「グループ品質・PL委員会」が中心となり推進しています。

1. 委員会組織として社内に設置（事務局：品質統括部）
2. ナブテスコグループの製品の品質管理およびPL（Products Liability: 製造物責任）に関する製品安全管理において、安全性欠陥を含む品質不良発生を予防し、品質不良・PL問題の発生時の適切な対応を行うための組織および管理についての基準を定めることにより、品質の維持・向上および安全性の確保を図るとともに、顧客の信頼を確保し経営の発展に寄与することを目的としている。
3. 規程に基づいて前年度の活動状況を見直し、年度方針、重点実施課題等を審議。決定後カンパニーに展開している。

### ■グループ品質・PL委員会体制図



## 様々な移動・生活空間における製品たちのお役立ち！

ナブテスコグループが手掛けた製品たちは、社会基盤の様々な空間や場面で活躍し、多くの方々のお役に立っています。特に近年、メカ・油圧・空気圧の技術基盤の上に電機・エレクトロニクス・システム制御を組み合わせた製品の活躍の場が拡大しています。

### 【人や物の移動】

陸（鉄道車両・自動車）、海（貨物船・客船）、空（飛行機）で、安全・安心・快適な移動空間作り貢献。

### 【ものづくり・まちづくり】

工場内の作業自動化・3K現場、建築・土木現場で、安全で快適な動作・精度とパワー、さらに安全防護・省エネ効果を発揮。

### 【人々の日常生活】

なにげない日常の生活空間で、安全・安心で快適な生活動作や活動のサポート役と安全防護・省エネに貢献。

### 【生活用品の生産】

省エネ・省資源対策と環境配慮型製品の開発・量産に貢献。

## 『安全・安心・快適』を込めた製品たちのお役立ち！

### 【人や物の移動】

超低床LRV（超低床式路面電車）から、通勤電車、超高速鉄道まであらゆる用途の車両に適応した側ドア装置および仕切りドア装置をラインアップ。駆動方式として空気式と電気式があり、ドア方式として戸袋式、外吊式、プラグ式があり、高速車両用には気密機能が備えられています。

ドアの開閉については、従来からの空気式に対し、電動システム化が進んでいます。電動システム化することにより、閉じる時の駆動力を最小限にして、挟み込みによる事故を回避したり、さらに挟み

込んだことを感知して、該当するドアだけの開閉動作により、挟み込みからの回避と復旧を自動的に行うことが可能となりました。

この結果、車両全部のドアを開閉する必要がなくなり、列車運行の定時制確保に役立っています。

■鉄道車両用ドア開閉装置

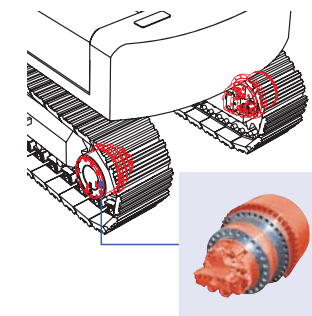


### 【ものづくり・まちづくり】

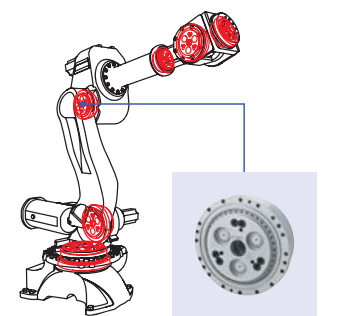
従来、クローラー（無限軌道）の幅を超えるもので破損しやすかった走行モーターを、精密減速機の採用でコンパクトにしました。この製品は、破損のしにくさから建築現場・土木現場のユーザーに広く親しまれ、3K現場の力持ちとしてお役に立っています。

一方、操作ミスや過負荷ですぐに壊れていた多関節産業用ロボットでしたが、クローラー用走行モーターで培った技術をこの産業用ロボット向け精密減速機に組み込むことで、破損のしにくさとともに停止精度を向上させることができました。現在では様々なアプリケーションとの組み合わせにより、工場内の3K職場や省人化のお役に立っています。

■クローラー用走行モーター



■産業用ロボット向け精密減速機



### 【人々の日常生活】

病院・オフィスビル・スーパーマーケット・鉄道プラットフォームなど、日々通り過ぎる様々なドアに開閉動作を自動で行う機能が組み込まれ、多くの方の安全や保全、さらに省エネのお役に立っています。

特に近年では鉄道プラットフォームでの転落・車両との接触事故が社会的な問題として取り上げられ、首都圏を始めとした鉄道在来線のプラットフォームへの可動式ホーム柵の設置が進められ、乗客の皆さまの安全確保に貢献しています。

また、高齢化や事故により歩行機能に支障のある方、および介護する方へ、「介助用電動車いす」、「階段移動用リフト」さらに「電子制御義足膝継手」が、生活動作や日常活動のサポート役としてQOL\*の維持向上のお役に立っています。

\*QOL: Quality Of Life

■建物・産業用自動ドア



■可動式ホーム柵・ドア



■福祉機器



### 【生活用品の生産】

給袋式自動充填包装機では、液体、固形物、固液混合物など多様な食品の計量・充填・包装が可能です。

カレーやシチューなどのレトルト食品、漬物、キャラメル、チョコレート、塩、砂糖、スパウト（飲み口）付き清涼飲料・ゼリー、ソース、スープ、ふりかけ、海苔、のど飴、他多数を手掛けています。食の安全・安心に応えながら缶詰に代わる真空袋詰め（パウチ）で、食材や梱包材の省資源化に貢献するとともに取扱上の

利便性を高めています。またガラス容器に代わり、詰替え用の洗剤や清涼飲料水などを正確に計量しながら袋詰め密封することで、輸送の省エネと取扱上の安全・安心に貢献しています。

■給袋式自動充填包装機



# 02 経営の透明性の確保

企業情報は正確に、わかりやすく、適切なタイミングで開示し、企業活動の透明性を維持します。

## 株主総会の参加しやすさ・わかりやすさに向けた取り組み

ナブテスコは、株主総会を株主さまと接することができる貴重な機会、場としてとらえ、多くの株主さまにご出席いただけるよう、招集通知の早期発送(3週間前)や、集中日を避けた開催、説明資料のビジュアル化の採用を実施し、さらにナブテスコグループの事業をより深く理解いただくため、2009年6月の総会より総会終了後に事業説明会を実施しています。

総会にご出席いただけない株主さまには、インターネットにより議決権行使ができる環境を整えるなど、当社総会に積極的に参画いただけるよう努めています。

また、株主さまに年2回送付している「株主通信」では、写真やイラスト、図などを多く用い、ナブテスコグループの事業を分かりやすく解説し、当社への理解を深めていただくよう工夫しています。

## 機関投資家・個人投資家に向けたIR活動

機関投資家向けでは第2四半期、第4四半期決算ごとにCEOによる決算説明会を開催しているほか、個別取材対応、スモールミーティングの開催、国内外IRカンファレンスへの参加、海外ロードショーの実施などを行っています。2011年度は、面談、電話対応を併せ500件以上の個別取材を受け入れ、海外では従来の欧州、米国、シンガポールに加え、香港および中国本土でのIR活動を行いました。また、国内外の生産拠点での工場見学会も適宜開催しています。

個人投資家向けには後述するWebサイト情報の充実に加え、全国各地での会社説明会や、窓口である証券会社のリテール

業員向け説明会を開催しています。2011年度には500名を超える方々とコンタクトすることができました。

また、個人投資家を含む一般認知度を向上させるため、関東、関西地区では電車の車内モニター、中部地区ではテレビCMを用いて企業広告を実施しました。



## 社会的責任投資家(SRI)との積極的なコミュニケーション

CSRとコーポレートガバナンスの向上が評価され、ナブテスコはSRIの世界的指標のひとつであるFTSE4Good Japan Indexに2009年9月以来、6半期連続で組み込まれています。社会的責任投資家との直接的なコンタクトはまだ少ないものの、DJSI(Dow Jones Sustainability Indexes)、CDP(カー

ボン・ディスクロージャー・プロジェクト)などのSRIリサーチファームによるアンケートなどには真摯に対応し、当社のありのままの姿を伝えるように努めています。



## Webサイト等による情報発信

典型的なBtoB企業であり、コンポーネントを中心とした当社の事業・製品は一般的にはなじみの薄いものがほとんどです。当社のWebサイトでは、特に一般生活者を意識し、ナブテスコについてわかりやすく、かつ親しみやすく見ていただけるよう、さまざまなコンテンツが提供されています。

IR情報についても、適時情報開示だけではなく、閲覧者=個人投資家と想定し、業績などを直感的にご理解いただけるよう、グラフを多用した説明とあわせ、用語説明も充実させています。また、機関投資家向け説明会の模様を動画配信したり、資料をダウンロードしたりできるよう、公平性の向上にも注力しています。

## IR活動に対する社会的評価・表彰

- MSCI Japan Index採用 (2009年11月~)
- 大和インベスター・リレーションズ社「インターネットIR表彰」2006年より6年連続受賞。2011年は優良企業賞。
- 日興アイ・アール社「全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」2006年より6年連続受賞。2011年は機械部門第4位、総合161位。



■大和インベスター・リレーションズ社「インターネットIR表彰」

# 03 社員への配慮

人権尊重を基本に、社員の安全・防災・健康に配慮した職場づくりを進め、一人ひとりが個性や持ち味を發揮できる環境を実現します。

## 人権に関する取り組み

### [人権に関する方針]

企業活動のあらゆる面で人権に配慮することは「企業の社会的責任」の基本となるものです。

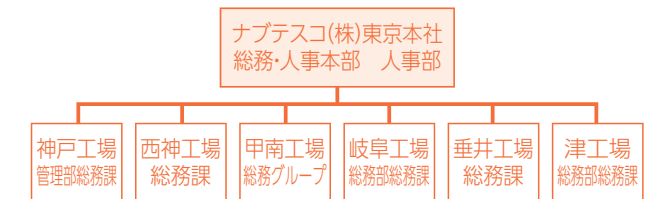
「ナブテスコグループ行動基準」には「基本的人権」に関する条項が定められており、グループ全ての役員、社員および社内でも業務に従事する方に対する指針を定めています。

### [人権啓発体制]

採用活動は本社以外に各事業所でも行っており、公正な採用選考を行うために各事業所に「人権啓発推進員」を置くことで適正な採用選考に努めています。現在は合計7名が「人権啓発推進員」に指名されています。また、毎年面接官講習を実施しており、2011年度までは人権に係わる苦情などは発生していません。

基本的人権を尊重し、人種・信条・性別・年齢・社会的身分・国籍・民族・宗教または障がいの有無などによる差別や、セクシャルハラスメントなどのいやがらせ、個人の尊厳を損なう行為は「しない・させない・見のがさない」ことを徹底します。

### ■公正採用選考人権啓発推進員設置事業所



## 安全衛生管理

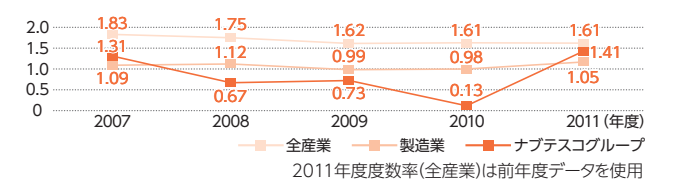
ナブテスコグループは、社員の安全・防災・健康に配慮した職場づくりを進め、一人ひとりが個性や持ち味を發揮できる環境を目指しています。

2011年度も、ヒヤリハット、KYT活動やリスクアセスメントの普及等の対策を進めるとともに安全パトロールの強化を図ってきましたが、労働災害発生件数は前年度から大きく増加し、度数率は1.41となりました。

急激な人員増により経験若年層での発生が多く、今後は職場のリスクアセスメントによる予防的安全管理を継続し本質的な安

全職場の形成に努めるとともに、新人教育の質の向上、危険感受性の高揚に向けた教育の強化や安全パトロールの強化を行い、働き甲斐のある風土づくりを推進していきます。

### ■労働災害発生率(度数率)



## 健康管理への取り組み

企業の組織運営にとって経営資源である社員が心身共に健康に働き、組織が活性することは重要な要素です。

### [メンタルヘルスへの更なる取り組み]

メンタルヘルスに関する問題は、ナブテスコグループ全体にも広がっています。会社の規模によっては、1名の不調発生が業務遂行の大きな支障になりかねません。特に心の不調を未然防止するには、部下の変調への気づき、業務上の過負荷の管理・フォロー体制を整えることが必要と考え、産業医や外部機関の講師を活用して各種セミナーや講習会を開催してきました。

社内には2名の看護師を配置しており、関西地区と東海圏以東

に大きく分けてメンタル不全者への適時カウンセリング、職場復帰の支援を行うとともに、業務負荷の高い者については各事業所と産業医が連携して定期面談を行うことでメンタル不全に陥らないよう指導を行っています。

また、より積極的に心の健康に関する健康増進を図るため、2011年度にEAPサービス(Employee Assistance Program)を導入し、会社には伝え難い悩み等を相談できる外部相談窓口を設置しました。



## メタボリック症候群対策

生活習慣病の予防のため、その原因のひとつとなっている「メタボリックシンドローム」の該当者・予備群の生活習慣を改善することは、本人の健康を保つためにはもちろんのこと、将来の医療費削減のためにも重要なことです。

ナブテスコでは生活習慣の改善が必要と判定された者に対し、ナブテスコグループ健康保険組合が委託している機関に所属する

保健師・栄養管理士による積極的な保健指導を行っています。管理栄養士による食事チェックと助言、担当指導員からのまごころを込めた応援メッセージや、本人の行動目標と数値目標が入った健康情報「ヘルシーサポート」を定期的に届けることにより対象者が目標を達成するようにサポートし、該当者・予備群ゼロを目指します。

# 03 社員への配慮

## ワークライフバランス

オンとオフのバランスを取って充実した会社生活や家庭生活を送ることにより、新たな価値観や発想を育み、その結果として社員一人

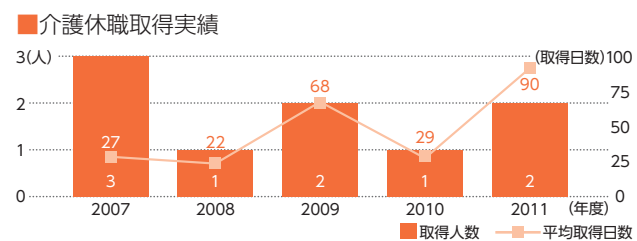
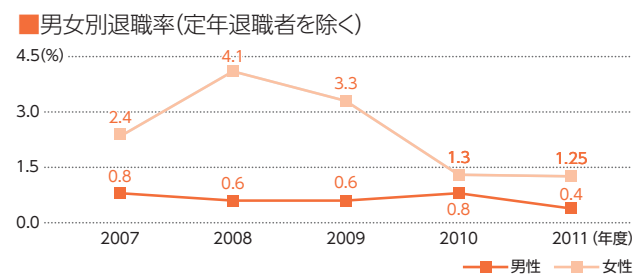
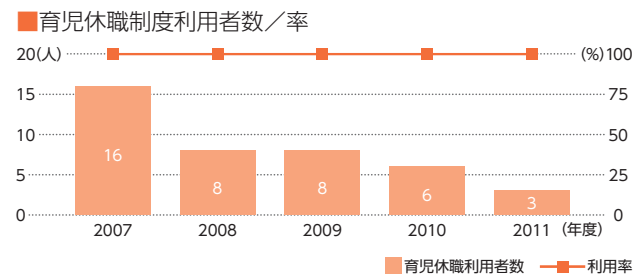
ひとりが質の高い仕事をしてほしいという思いから、ナブテスコではワークライフバランス実現に向けたさまざまな制度を導入しています。

### 【育児・介護支援】

1. 育児休職制度：最長2年取得可能。配偶者が子の養育に専念できる場合も取得可能
2. 介護休職制度：対象家族1人につき通算180日まで取得可能
3. 育児のための勤務時間短縮：子が小学4年生の始期まで1日2時間以内の短縮可能
4. 子の看護休暇：小学4年生の始期までの子を養育する社員を対象。7日（無給）・失効有休積立制度を利用し必要日数（有給）
5. 妻出産時の特別休暇：5日（有給）
6. 介護のための勤務時間短縮：1日2時間以内の短縮可能
7. 共済会による育児・介護休職援助融資
8. 育児・介護中の社員への転勤時の配慮（就業場所変更を避けるなど）

### 【その他支援】

1. 総合福利厚生サービス(WELBOX)
2. ナブテスコ通信教育制度
3. 資格取得援助制度
4. 事業所英会話教室
5. クラブ活動援助



## 雇用均等の取り組み

少子高齢化/グローバル化の進展に伴い、ナブテスコでは外国籍人材の採用、女性の採用に積極的に取り組んでいます。

### 1 女子学生へのアプローチ

ナブテスコは機械メーカーということもあり、女性の新卒社員を採用し難い状況にありましたが、女性の積極採用を進めるため、2011年度の新卒採用活動から女子学生を対象とした説明会を行っています。

会社概要の説明、学生からの質問の回答も全て女性社員が担当するリクルート活動であり、「育児に関する制度」、「家庭と仕事の両立」など、女性社員の経験を生で聞くことができる場を提供し

ています。結果として、2011年度(2012年4月入社)の採用活動では当初の目標であった2割(6名)を超える女性社員が入社しました。



### 2 留学生・外国籍社員への積極採用

経済の成熟化と少子化に伴い日本の人口は減少局面へ移行しています。今後、国内市場では大幅な経済成長を望むことは難しく、一層のグローバル化の進展に対応せねばなりません。

外国籍人材には、日本人とは異なる発想と仕事への積極的姿勢が期待でき、既存の社員にも良い刺激を与えていると考えています。

国内の留学生に限定した企業説明会の開催や、海外の大学での採用活動にも取り組み、新卒採用の3割程度を外国籍社員で確保することを目指しています。

### 3 高齢者雇用

改正高齢者雇用安定法施行以来、継続雇用制度を導入し、着実に再雇用率を伸ばしています。近い将来には90%~100%近くまでこの数値は伸びると想定しています。熟練者には過去に培った経験・知識・技能があると認識し、定年退職後もその能力を如何なく発揮してもらいたいと考えています。各生産拠点では習熟された技能を後進に伝承し、また、暗黙知を形式知化する活動を行っています。これらの活動は現在のナブテスコの技術力を支える財産となっています。

### 4 障がい者雇用

障がい者雇用率については4年連続で引き上げることができました。2013年度には法定雇用率が引き上げられるため、2012年度以降もより積極的な採用活動を行います。

一部の事業所では地域の特別支援学校と連携しながら、生徒の作品の展示販売、インターンシップの受け入れ、事業所でのイベントなどに招待するなど積極的な交流を図っています。

## 労務管理実態

ナブテスコでは毎年社員に関する状況を把握するため、定期的に人材に関する労務データを作成しています。

2012年3月末現在の調査結果は「人材に関するデータ」表にある通りです。

2011年度の全退職者数の内、約80%は定年退職者が占めておりこの傾向は後4年程度続きますが、雇用継続制度(再雇用制度)を充実させることにより労働力の確保に努めます。また、2011年度は新卒採用者数を上回る中途採用数を確保し人材の強化に繋がりました。

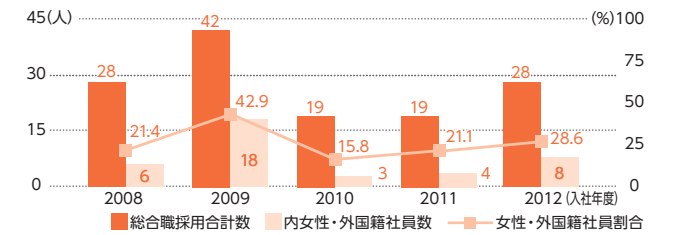
その他、2011年度は前年と比較し育児・介護休職取得者が減少しましたが、2011年6月に改正した育児・介護休業制度では、より取得しやすい制度となり利便性を高めるよう努めています。

## 労使関係

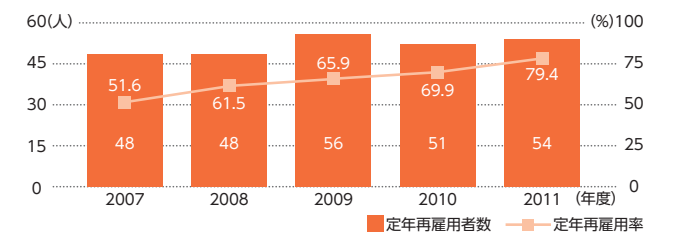
ナブテスコ株式会社は2004年10月に帝人製機株式会社、株式会社ナブコの事業統合を行いました。その後両社の労働組合は2010年10月30日に統一されました。

組合はユニオンショップ制であり、現在1,700名程度の組織になっています。賃金・一時金の協議は元より、会社諸制度の改

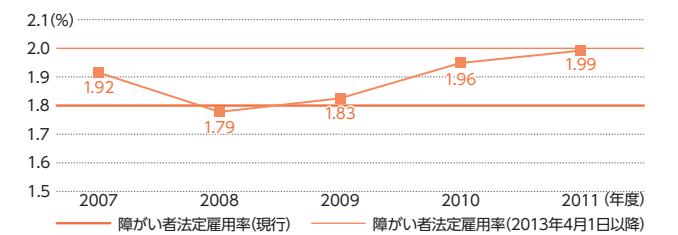
### 女性新卒・外国籍総合職採用数と割合の推移



### 定年再雇用率の推移



### 障がい者雇用率



### 人材に関するデータ

ナブテスコ株式会社単体正規社員のみ(2012年3月末現在)

	1)正社員数	1)のうち管理職数	2)採用者数	2)のうち新卒採用
男	1797	262	111	38
女	161	1	8	2
合計	1958	263	119	40

	3)退職者数	3)のうち定年退職者	3)のうち会社都合退職者	3)のうち自己都合退職者
管理職	20	17	0	0
一般職	67	53	0	11
合計	87	70	0	11

	育休取得者数	介護休取得者数	平均年齢	平均勤続年数
男	0	0	42.1	17.8
女	3	0	39.8	16.5
合計	3	0	41.9	17.7

\*定年退職者と自己都合退職者の合計と退職者数の差は死亡退職者などになります。

善、また、経営環境に関する意見交換を定期的に重ねながら健全な労使関係を保っています。

労働組合との協定書の中には、一斉定時日(ノー残業デー)や計画的な年次有給休暇取得に関する促進努力規程なども記載され、ワークライフバランス実現に向け労使協調しています。

# 03 社員への配慮

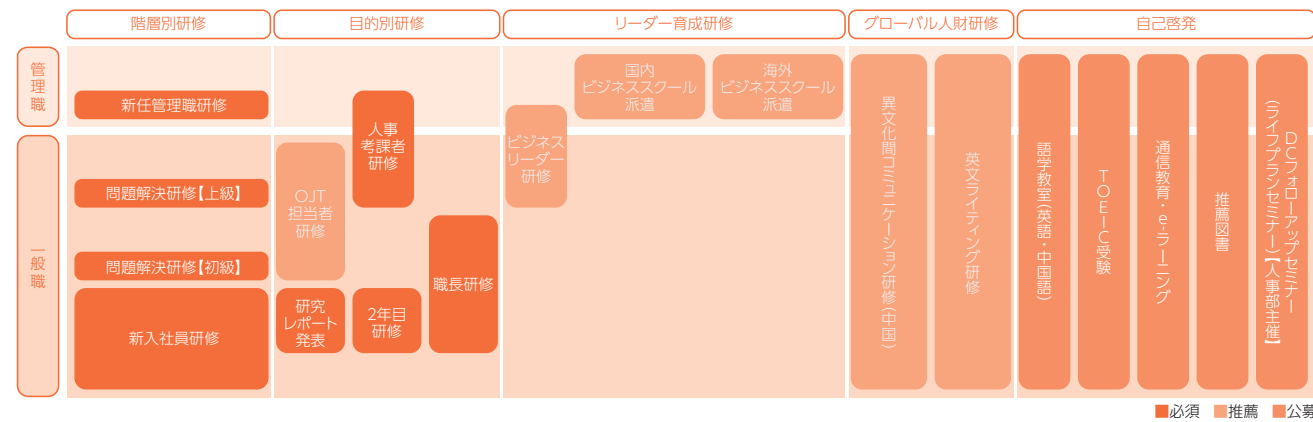
## 人財育成

### [人財育成に関する基本方針]

ナブテスコグループでは、「どのような人財に育てたいのか、育てほしいのか」を明確にし、社員全員の目指す方向(ベクトル)を合わせるために、「グローバル企業集団の一員として、自ら考え学習し、実践し続ける社員を育成し、学びの風土を醸成する。」という人財育成基本方針を、2010年10月に策定しました。

変化に対応していくには「自ら考え学習」することが重要であり、それを「実践し続ける」ことによって人財は磨かれます。「学びの風土」が醸成されれば良い連鎖が生じ、社員全員が「人材」から「人財」となり、その「人財」が当社の最大の強みとなると考えています。

■2011年度教育体系【人財開発部主催研修】 \*技術、法務、コンプライアンスなどの各専門教育は担当部署が別途実施。



### [教育の実践]

#### 1 グローバル人財育成

海外における事業展開の一層の拡大を踏まえ、グローバルに活躍できる社員の育成が求められています。海外赴任者強化については、海外赴任者登録制度を開始し、赴任後の業務を円滑に開始できるよう赴任前教育を計画的、体系的に実施しています。また、多様性を受容し、外国人とのコミュニケーション能力を向上させるために、国内勤務社員を対象として、異文化間コミュニケーション研修、英文ライティング研修などを開講し、新入社員研修にもグローバル研修を加えました。



■異文化間コミュニケーション研修

#### 2 若手社員の基礎力向上(早期戦力化)

入社3年間は、知識や技術の吸収力が高く、基礎能力を習得する絶好の機会であり、この機会に計画的、体系的な教育を行います。基礎が固まっていないとその後の成長が伸び悩んでしまいます。そこで入社3年後には一人前に成長できるように、新入社員研修、2年目研修、レポート発表などの育成の環境を整えています。また、職場でも計画的な育成を行うために新入社員一人ひとりにOJT担当者を選任し、若手社員の早期戦力化のためのサポートができるように工夫しています。



■新入社員研修

#### 3 組織力強化

ナブテスコおよび一部のグループ会社を対象に組織診断を実施しました。その結果から、組織としての強みと弱みを自覚し、本部、カンパニーごとにその真因を追究し、経営層から社員までが共有しました。弱みの改善については、組織の要であるミドルマネジメント層の強化を目的とし、まずは新任管理職研修のカリキュラムを見直し、リーダーシップ、コーチング教育を充実させ、伝える力と聴く力の向上を図りました。また、他の階層別研修においても、研修事後課題シートに上司コメント欄を設け、部下への支援内容や期待を明示するなど、上司と部下の関わりを促進する仕組みを取り入れています。

#### ■受講者数(2011年度 人財開発部主催研修)

研修名	受講人数	研修名	受講人数
新入社員研修	42名	人事考課者研修	33名
問題解決研修【初級】	54名	職長研修	21名
問題解決研修【上級】	36名	ビジネスリーダー研修	19名
新任管理職研修	26名	国内ビジネススクール派遣	11名
研究レポート発表	14名	海外ビジネススクール派遣	3名
2年目研修	15名	異文化間コミュニケーション研修	63名
OJT担当者研修	19名	英文ライティング研修	59名

上記人数は、関係会社の社員を含みます。

# 04 環境への配慮

環境・安全の先進企業を目指し、事業活動のあらゆる場面で地球環境に配慮します。

地球環境保全活動は世界的に展開されていますが、地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇などの自然環境の破壊は、今もなお進行しており、企業の環境保全への取り組みは、社会的責任として、更に重要な課題となってきています。

特に地球温暖化問題は、IPCC第4次評価報告\*の通り、世界の平均気温や平均海面水位が上昇し、豪雨・洪水・干ばつなどの異常気象、生物の生息領域北上、害虫の越冬、サンゴの白化の拡大など生態系の変化などの現象が、一刻一刻と進行しています。

現在は全世界の人々がその問題を認識し、京都議定書の目標達成(先進国排出枠取り決め)課題だけでなく、『低炭素社会の実現』への地球的規模での取り組みについて真剣に検討がなされているところです。

私たちナブテスコグループは、『地球環境への配慮』と『地域・文化との調和』を経営の重要課題と捉え、今後もこれらの社会的な活動へ積極的に参画するとともに、製品や事業活動に係る環境負荷の低減、環境改善をより積極的に推進してまいります。

\*IPCC第4次評価報告：  
IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change:気候変動に関する政府間パネル)  
第4次評価報告は、第27回総会(2007.11.12~11.16 於スペイン)で審議された結果。

## 環境方針

持続可能な社会の実現に向けて、ナブテスコグループの社会的責任を自覚した活動を推進するため、ナブテスコグループ

は、『環境理念』、『環境行動指針』(2005年5月制定)を定めています。

### ナブテスコグループの環境理念

私たちは事業活動による地球環境への影響を常に認識し、人と自然にやさしい商品と環境づくりに努め、豊かで快適な未来社会の実現を目指します。

### ナブテスコグループの環境行動指針

1. 地球環境保全は人類共通の重要課題と認識し、環境保全活動成果の向上を目指した目標の設定と継続的な改善への取り組みを、全員参加により積極的に推進します。
2. 商品の企画・開発・設計にあたっては、そのライフサイクルにおける環境への影響を把握し、エネルギー効率、省資源、リサイクル性の向上に努めます。
3. 商品の生産・販売・物流・サービスにおいては、環境先進技術を積極的に採用し、また工夫することにより、省エネルギー、資源の有効利用、ゼロ・エミッションへの挑戦など、環境負荷の低減に努めます。
4. 環境関連の法規制や社会的規範等を順守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、環境上の目的に合った自主的な活動に取り組みます。
5. 環境情報の開示や社会活動への参画など、社会との交流・連携を積極的に推進し、理解と信頼を得ることに努めます。



# 04 環境への配慮

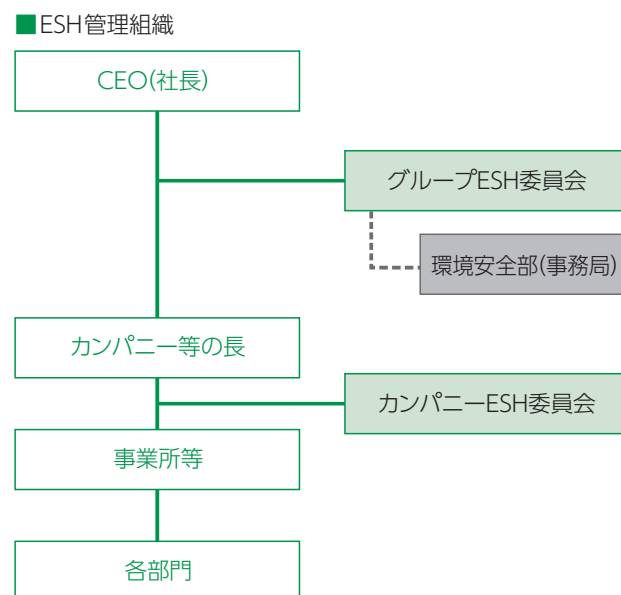
## 推進体制

ナブテスコグループの環境への取り組みは、社内カンパニーやグループ会社ごとのESH\*組織により構成された集合体で推進されています。(右図参照)

グループESH委員会は、ナブテスコグループにおける製品の研究・開発から、流通、販売にいたる全ての事業活動に係わる、環境保全、防災、衛生等の基本方針ならびに国内外関係法規の遵守に加え、全社的に管理すべきものについての基準を定めることにより、地域社会の環境保全、社員及び社員とともに事業活動に従事する者の安全と健康の確保、ならびに地球環境との共生を図り、企業の社会的責任を果たすことを目的としています。

グループESH委員長は、全事業所を巡回してESH監査を行い、活動状況の確認と監査指導を行っています。年度末には、この監査結果やフォロー状況を含めたESH活動の成果報告に基づいて、グループ経営層によるESHマネジメントシステムの見直しが行われます。

\*ESH:Environment, Safety & Health



## 環境マネジメントシステム

ナブテスコグループは、国際規格ISO14001を環境管理に有効なツールとして捉え、環境マネジメントシステムの構築・運用に活用しています。このISO14001の認証は、1999年10月に甲南工場が先行取得したのを皮切りに、現在はナブテスコ全工場と主なグループ会社5社が取得をしています。

ナブテスコグループでは、グループ間のベクトル合わせ、情報の共有化及び協調活動を推進していくことにより、グループ全体の活動の一貫性を維持し、効果的なパフォーマンスの達成を実現していくとともに、エコロジーとエコノミーが融合した持続性のある仕組みの定着化を目指しています。



### ISO14001認証取得状況

	認証取得日	最新更新日	認証機関
甲南工場(兵庫県)	1999年10月22日	2011年11月 1日	LRQA
西神工場(兵庫県)	2003年11月30日	2009年11月30日	LRQA
神戸工場(兵庫県)	2004年 3月26日	2010年 3月26日	JQA
津工場(三重県)	2000年 3月28日	2012年 3月28日	ISC
岐阜工場(岐阜県)	2001年 6月 1日	2010年 7月 1日	LRQA
垂井工場(岐阜県)	2001年 6月 1日	2010年 7月 1日	LRQA

### [ 環境教育・啓発 ]

ナブテスコグループでは、環境・安全・健康の意識高揚を図るため、さまざまな教育を実施しています。

新入社員教育では、当社の環境への取り組み内容、パフォーマンスを示し、一人ひとりの小さな積み重ねが、環境負荷低減への大きな力となることを説いています。

また、各事業所のESH担当管理職、担当者を対象に、ESH研修会を開催、最新のESH情報や重要な法改正情報の周知徹底を図っています。

### [ 環境に関する違反 ]

ナブテスコグループでは、法違反を防止するため適用される法規制を特定、文書化し順守確認を行っています。2011年度においては、環境規制への違反に対する罰金、制裁処置等はありませんでした。

## 環境配慮型製品の開発

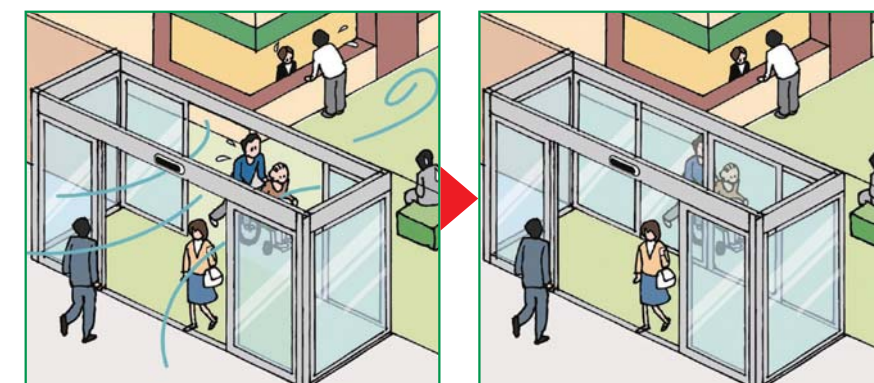
ナブテスコグループでは、独創的なモーションコントロール技術で、安全・安心・快適な移動・生活空間の提供に努めています。製品のライフサイクルにおいて、環境との関わりが最も大きい

は、製品の使用段階です。設計・開発段階では、高性能化、コンパクト化、軽量化、安全性・アメニティ向上など、お客さまと社会のニーズを重視した製品化を推進しています。

### [ 製品を通じた温暖化防止 ]

#### 1 インテリジェントecoドアシステム

横切る人には反応せず、自動ドアを通行したい人だけにドアが開く自動ドアシステムを開発。横切り通行による不要な開閉を削減することで、室内の空調効率を向上させます。国内における空港旅客ターミナルや鉄道駅の駅務室に設置いただくなど、高い評価をいただいています。



従来製品では外気の流入により、必要以上にエネルギーコストがかかっていませんか？

インテリジェントecoドアシステムなら…空調機電力量約20%削減

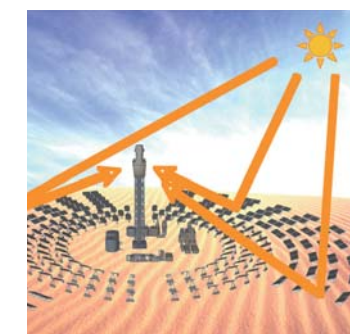
#### 2 太陽追尾駆動装置

ナブテスコは米国ネバダ州トノパの太陽熱発電プラント(110MWのCrescent Dunes Thermosolar Power Plant)に使用される太陽追尾駆動装置(旋回軸)を受注致しました。

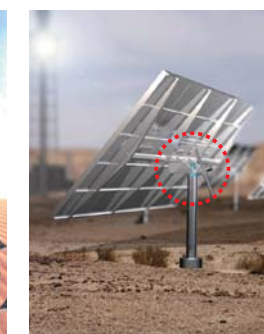
当装置は、タワー方式太陽熱発電プラントにおいて、太陽光を反射させる鏡(ヘリオスタット)を太陽の動きに追尾させて中央タワーへ集光するための装置です。

ナブテスコはこれまで産業用ロボット向け精密減速機の世界最大のサプライヤーとして実績を築いてまいりましたが、今回の受注により新たに太陽熱発電分野へ精密減速機を事業展開することになります。

#### ■ タワー方式太陽熱発電プラント

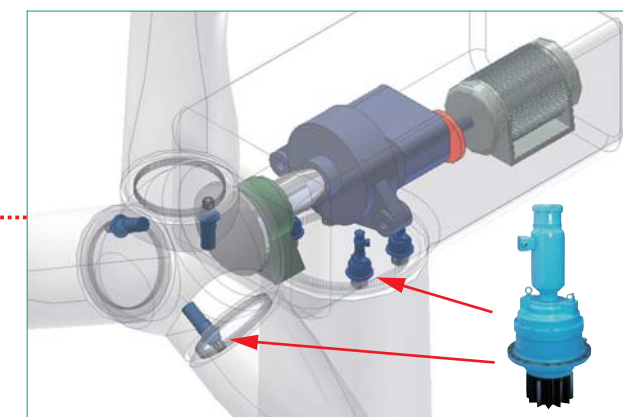


#### ■ 太陽追尾駆動装置



#### 3 風力発電機用高効率駆動装置

「旋回駆動装置」と「ピッチ駆動装置」は優れた過負荷能力と軽量性、コンパクトなサイズの実現と20年の寿命を有し、国内シェア90%、世界シェア7%と、市場から高い評価をいただいています。



# 04 環境への配慮

## 気候変動の緩和

### 地球温暖化防止（省エネルギー）

グループ長期目標(2014年度達成)

・エネルギー使用量(原単位)の低減:10%以上(2004年度基準)

ナプテスコグループは、地球温暖化防止のため、エネルギー資源の有効利用活動を行っています。

この活動では、節電や設備点検などの運用管理を維持・継続するとともに、省エネ改善テーマの設定と効果の定量的評価により、重点志向の改善推進に努めています。

### 2011年度実績

二酸化炭素排出量改善	目標	実績*	評価
単年度売上高原単位	前年度比 1%向上	5.4%向上	達成
長期売上高原単位	'04年度比 7%向上	26.8%向上	達成

\*: 実績評価での換算係数は2008年度係数を、また電気は0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWhを固定して使用

### [2011年度の二酸化炭素排出量]

51,100 CO<sub>2</sub>-ton <sup>\*1\*2\*3\*4</sup> (2010年度 46,100 CO<sub>2</sub>-ton)

ナプテスコグループでは全社を挙げて、施設や設備機器の改善や工程改善を推進してきましたが、売上げ増加により二酸化炭素排出量は、前年度に比べて約10.9%<sup>\*2</sup>増加となりました。

電気事業者ごとに公表されるCO<sub>2</sub>換算係数(実係数及び調整後係数)を用いた場合の排出量は以下の通りです。

42,600CO<sub>2</sub>-ton <sup>\*1\*2\*3\*4</sup> (実係数使用)

34,000CO<sub>2</sub>-ton <sup>\*1\*2\*3\*4</sup> (調整後係数使用)

### [二酸化炭素排出量原単位(売上高)]

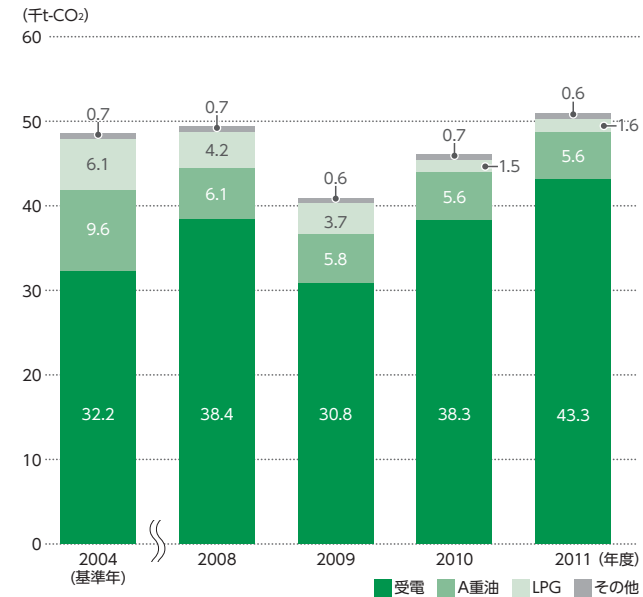
世界的な景気低迷の影響は、2008年度下期から顕著に現われ、2009年度の生産量は大きく減少しました。その後、2010年度、2011年度と増加し、2011年度の実績は2010年度に比べ約17%増加いたしました。結果としては二酸化炭素排出量の増加はあったものの、2011年度も二酸化炭素排出量原単位は改善しました。

2011年度は、後半から欧州の金融危機を端に景気の先行きが見えなくなり生産に関しても陰りが出てきましたが、一年を通しては増産となりました。また、年間を通じた改善活動の結果、単年度売上高原単位は5.4%向上し、長期売上高原単位も26.8%改善となり目標値を達成できました。

### 最近実施した主な省エネテーマ活動

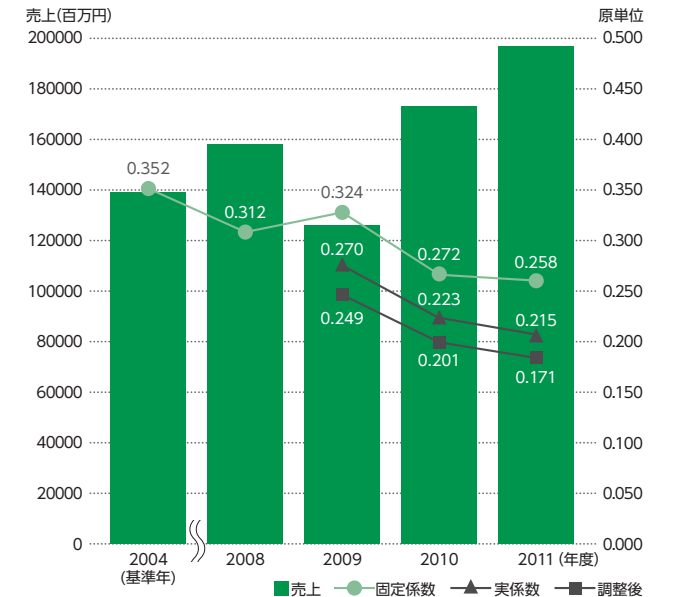
1. 空気圧縮機更新と圧空配管の漏洩点検修理
2. 空調設備の高効率タイプへの更新
3. 空調用冷凍機の間欠運転
4. 試験装置冷却水の未試験時の停止
5. 試験装置冷却設定温度の変更
6. 照明機器の高効率タイプ(LED等)への更新
7. 油圧ユニットのインバータ化
8. 耐久試験装置の動力回収

### 二酸化炭素排出量



\*1集計期間は、2011年4月～2012年3月。  
 \*2集計の方針及び基準は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(地球温暖化の推進に関する法律)に準拠し、環境情報管理に関する社内規定に基づき集計。  
 CO<sub>2</sub>の排出係数は原則として「地球温暖化の推進に関する法律」に準拠。但し、電気は①デフォルト値である0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。②実係数として、環境省公表の電気事業者ごとの排出係数を使用。③調整後係数として、環境省公表の電気事業者ごとの排出係数を使用。

### 売上高原単位 (CO<sub>2</sub> 排出量/百万円)



\*3集計範囲は、国内のみ。ナプテスコ株式会社(岐阜工場、垂井工場、津工場、神戸工場、甲南工場、西神工場、本社(川崎含)、名古屋営業所、神戸営業所、北九州営業所)。ナプテスコオートモーティブ(山形工場、横須賀技術センター、本社)、大並真空(本社工場)、シーメット(本社、樹脂開発センター)、ナブコド(本社)、ナプテスコサービス(神戸事業所、横浜事業所)、東洋自動機(岩国工場)、ティーエス プレジジョン(本社工場)、愛新機工(本社工場)。  
 \*42011年度データより、ナプテスコ株式会社岐阜工場、垂井工場、津工場の二酸化炭素排出量合計値(固定係数35,621トン、実係数30,934トン、調整後係数23,389トン)に対して、株式会社あらたサステナビリティ認証機構様の第三者保証を受審。

### [再生可能エネルギーの活用]

垂井工場(岐阜県)新建屋の屋上に400kW太陽光発電パネルを設置し2012年8月1日より稼働しました。

これにより、年間434MWh以上を発電し二酸化炭素排出量を241トン削減することができると見込んでいます。

またピーク電力の削減も約280kWを見込んでいます。



### [貨物輸送の省エネ]

ナプテスコ(単体)の貨物輸送量(ton-km)は、前年度比33%増の1,740万ton-kmとなりました。特定荷主の規模には達していませんが、今後も、輸送品の収納効率、輸送回数、輸送ルートや、復路の有効活用など物流面での効率改善に努めていきます。



# 04 環境への配慮

## 廃棄物の削減

### ゼロ・エミッション化

グループ長期目標(2014年度達成)

- ・ゼロ・エミッション率1%以下(埋立処分量/総排出量)

ナブテスコグループは、事業活動で生じた全ての排出物について、循環型社会形成の基本原則3R(Reduce⇒Reuse⇒Recycle)に基づいて、ゼロ・エミッション化を目指した埋立廃棄物低減活動を推進しています。

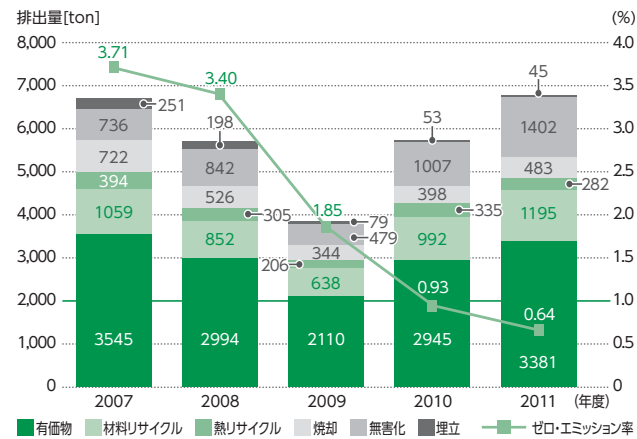
2008年度からは、リーマンショックの影響を受け、生産量減に伴い排出物量も減少していましたが2010年度からは、生産量が大きく回復したため、総排出物量も増加しました。

一方、埋立廃棄物については、制輪子集塵灰の路盤材へのリサイクル化、および廃プラのRPF(Refuse Paper & Plastic Fuel)化等を推進した結果、2011年度は前年度比で埋立処分量は33%削減し、ゼロ・エミッション率は0.64%(2010年度:0.93%)となり、2年連続2014年度目標の1%以下を達成する事が出来ました。今後は更なる低減に向けた活動ならびに廃棄物のリサイクル化に取り組んでまいります。

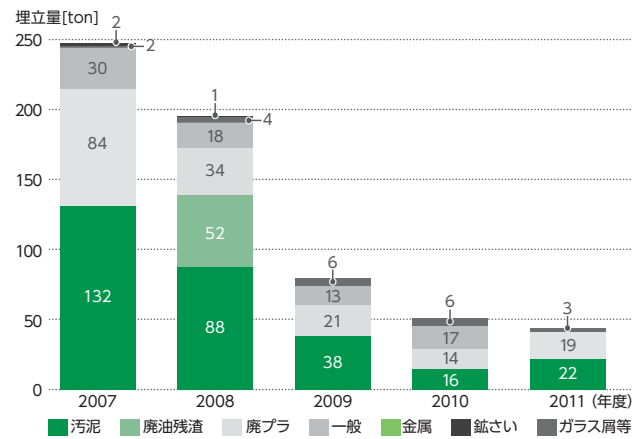
### 埋立廃棄物の削減

2014年度目標	2011年度結果	評価
ゼロ・エミッション率:1.0%以下	ゼロ・エミッション率:0.66%	長期目標達成

### 排出物推移/ゼロ・エミッション率



### 埋立量推移



### 排出物処理の内訳概要

- 【有価物】金属屑、廃油、ダンボール紙等
- 【材料リサイクル】廃油、汚泥、木屑、廃液類、廃プラ等
- 【熱リサイクル】梱包材、一般ゴミ、廃プラ等
- 【焼却】一般ゴミ、廃プラ等
- 【無害化】水溶性廃油、廃アルカリ等
- 【埋立】汚泥、廃プラ、ガラス屑

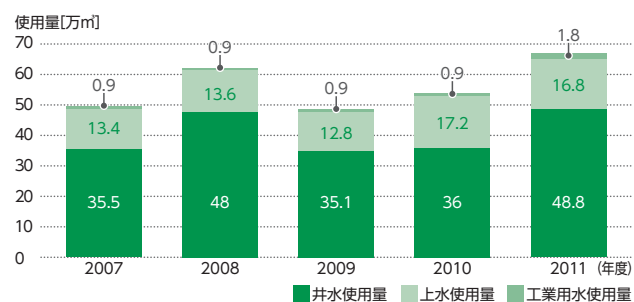
## 水使用量

ナブテスコグループでの水の用途はテストスタンドの冷却が主です。

2011年度のナブテスコグループの水使用量は68万m<sup>3</sup>となり、前年度より24.8%(13.4万m<sup>3</sup>)増加しました。増加分の内90%が垂井工場(岐阜県)での増加となっています。

これは、地下水の豊富な垂井工場では水の循環利用を行っていないこと、及び2010年度に行った油圧走行モーター製造の垂井工場へ集約、その後の生産量増加によるものです。

### 水使用量



## 化学物質管理

### 1 PRTR物質

ナブテスコグループは、2003年3月のPRTR\*法の施行に基づいて、取扱量等の把握、適切管理、使用量削減等を推進中です。

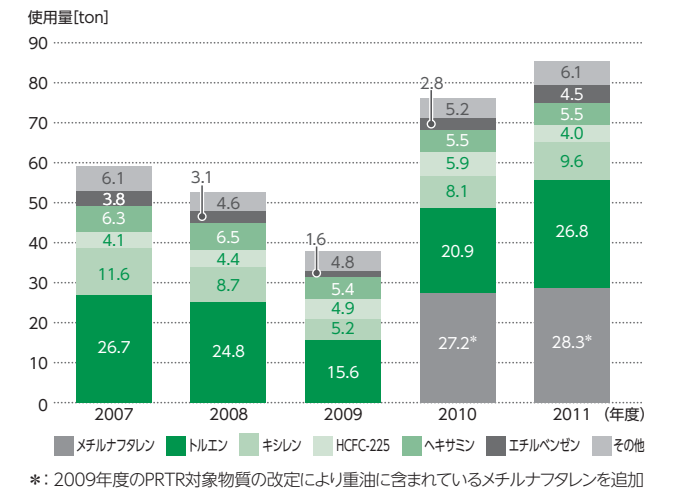
2011年度の使用量は合計88.4トンで、2010年度に対し12.2%増となりました。

主な対象化学物質は、メチルナフタレン、トルエン、キシレン及びHCFC-225であり、A重油に含まれているメチルナフタレンを除いたトルエン、キシレン及びHCFC-225の使用量は全体の48%を占めており、その殆どが塗装工程の希釈剤や洗浄剤の含有物質です。

今後はエコ塗料への代替化、1回塗り、水系洗浄剤への変更に向け、塗料メーカーやお客さまとの連携を深め、環境負荷の低減施策を推進していきます。

\* PRTR法:「化学物質排出把握管理促進法」

### ■主なPRTR対象物質の使用量推移



### 2 PCB含有廃棄物(電気工作物)

ナブテスコグループは、2001年6月に公布されたPCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)に基づいて、PCB含有のトランス、コンデンサ等の届出を行い、適切に保管、管理しています。

2011年度は、西神工場保管分を日本環境安全事業(株)(JESCO)で処理しました。グループ会社であるティーエスプレジジョン(株)保管分の高濃度のものについては2013年度に処理する予定です。

PCBの処理は、法により2016年までに完了することになっていますが、残り3事業所についてはJESCOからの連絡待ちの状態です。

### 3 土壌汚染

有害物質の土壌蓄積は、深刻な社会問題になることから、ナブテスコグループでは土壌や地下水の汚染防止を企業の重要な社会的責任の一つとして捉え、前向きに取り組んでいます。

2005年5月、旧横須賀工場の土壌・地下水を調査した結果、揮発性有機溶剤などの汚染が確認されたため、法に基づく届出を行なうとともに、行政との連絡を密にしながら、土壌改良や地下水浄化作業を実施しました。2011年4月には土壌浄化工事が完了、また2012年3月には地下水浄化工事が終わり、現在は地下水のモニターを実施中です。(最終完了は2014年度末)

### 4 アスベスト問題

石綿は優れた物理的性質を持っているため、あらゆる産業分野から一般家庭まで、様々な用途に幅広く使用されてきました。ナブテスコグループでは、生産品、工程、設備、建物等について、過去を含めその使用状況を調査・把握して、適切な対応措置を行っています。

ナブテスコグループでは、過去一部の職場において石綿粉塵との係わりがありました。2006年度に全退職者に石綿健康診断の案内を送付、受診を促しました。2009年度には法改正に伴って新たに石綿健康診断の案内を再送付し石綿健康診断を継続しています。また、石綿健康診断にて有所見のあった方に対しては石綿健康管理手帳の交付手続きの支援を行っています。

ナブテスコは従前よりアスベスト含有品の使用を中止すべく対策を実施してきましたが、鉄道車両用部品、航空機用修理部品、建設機械用機器等の一部に、アスベストを含むガスケット等を出荷した事実が2007年2月に判明したため、速やかに行政・顧客へ報告するとともに、回収と是正措置を行いました。お客さまをはじめ関係各位には、大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後は管理体制の一層の強化に努めてまいります。尚、この該当部品は、アスベストが固化されたものであり、また機器内部に密封状態で使用されているものであり、飛散する恐れはありません。

# 05 公平・公正な企業活動

私たちは、公平・公正・透明な購買取引を通じ、取引先とともに健全な社会の形成・維持に貢献していきます。



# 06 経営体制

株主をはじめとするステークホルダーからさらに信頼される会社になるため、法令遵守はもとより、高い透明性と倫理観に基づく企業経営の実践に努めております。



## 1. 基本的な考え方

私たちは、昨今の社会的要請を真摯に受け止め、公平・公正・透明な取引を通じた取引先との相互信頼関係を基礎に、企業

単体にとどまらず、サプライチェーン全体で企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

## 2. 推進体制

コンプライアンス推進部、及び法務部の助言と支援を背景に、ものづくり革新推進室 生産技術部(購買)が推進の軸となり、グループ購買会議にてナブテスコグループ内の合意を形成しながら、各カンパニーを通じて取引先とともにサプライチェーン全体で企業の社会的責任(CSR)を追求していきます。



## 3. 取組み内容

上記の基本的な考え方に基づき、2010年度下期に取引先本契約書にCSRの観点を盛り込み、2011年度以降、国内全取引

先との合意、締結を進めております。

- 1. 安全衛生の確保・労働条件の適正化**  
弊社のみならず、取引先においても安全衛生の確保、違法な労働をなくします。
- 2. 法令順守**  
CSRの基礎であるコンプライアンスを推進します。
- 3. 公害防止・環境管理・特定有害物管理業務**  
環境保全、特定有害物質の不使用を通じて未然に公害を防止します。
- 4. 災害防止義務**  
災害の未然防止に平時より取り組みます。
- 5. 談合・贈賄の禁止**  
談合・贈賄を禁止し、取引先との公平・公正・透明な関係を維持・発展させます。
- 6. 反社会的勢力の排除**  
反社会勢力との関係が明らかになった場合は即時に取引を停止します。

## 4. 今後の進め方

今後、取引先との双方向コミュニケーションを進化させ、ゆるぎのないWIN-WINの関係の維持・更なる向上を目指すとともに上

記推進体制によるCSR活動を、より充実させてまいります。国内に加え、海外取引先にもこの推進体制を拡大していきます。

## コーポレートガバナンスの状況

グループ会社の事業内容、事業特性に鑑み、意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を目的として執行役員制・カンパニー制を採用するとともに、これを統制する企業統治体制として取締役会、監査役(会)、会計監査人および業務執行上の重要事項を審議する機関としてマネジメント・コミッティを置いており、経営上の意思決定、監督、執行および経営監視の機能を明確に区分しております。

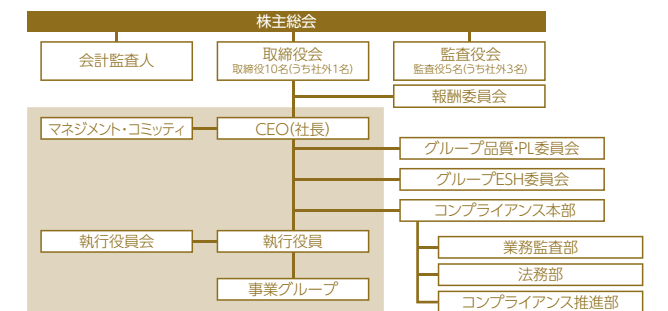
なお、マネジメント・コミッティには常勤監査役も出席し、重要な取締役会付議案件は事前に審査論点を整理した上で取締役会に上程することで、取締役会における意思決定の適正化および効率化を図っております。

現在、ナブテスコの取締役会は2名の社外取締役を含む10名で構成しております。また、取締役の経営責任の明確化を図るため、取締役の任期は定款で1年と定めています。さらに、取締役会の諮問機関として社外役員2名を含む3名からなる報酬委員会を設置し、常勤取締役および執行役員処遇の大綱ならびにその運用について審議し、適正化に資しています。

ナブテスコの監査役会は、3名の社外監査役を含め5名で構成しています。さらにグループ会社の監査役を含めたグループ監査役会を設置し、グループ監査体制の強化を図っております。

これらの体制を整備、強化することにより、業務執行の敏速化および機動性を維持しつつ、企業統治体制の強化と責任の明確化を図り、ナブテスコグループの企業価値向上に資する効率的かつ透明性の高い企業経営を実現いたします。

### ■コーポレートガバナンスの体制図



## 内部統制システムの整備の状況

ナブテスコグループは、「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、経営の効率化、コンプライアンス、情報管理、リスクマネジメント、監査役会との連携など、内部統制に係る全てのテーマを一貫した理念に基づいて整備し、一連の内部統制システムとして構築していくことを目指しています。

### [内部統制システム構築の基本方針の概要]

内部統制においては、企業理念、企業倫理綱領およびグループ

## リスク管理

ナブテスコグループでは、業務遂行に関し、損益、資産効率、品質、災害等の状況が取締役に適正かつタイムリーに報告され、またグループに著しい損害をおよぼすおそれのある事実があることを発見したときは、迅速にかつ的確に取締役(会)に報告される体制を整備し、リスクの早期発見に努め、損失の最小化を図る活動を進めています。具体的には、以下の事項に対し、リスクの管理および損失の予防を行うとともに、グループ横断的な組織の設置、規程の整備も行っています。

- 1 事業環境や業界構造の変化および新技術、新規参入への対応の遅れ等に起因する事業機会損失リスク
- 2 取締役会、使用人の不適切な判断、業務処理あるいは重過失、不正行為に起因する事業運営リスク
- 3 カントリーリスクや販売先・仕入先の与信等に起因する代金回収不能・調達支障リスク
- 4 所有する金融資産や金利・為替の変動等に起因する金融リスク

行動基準を適正かつ公正な事業活動の拠り所とし、取締役、監査役および全てのグループ社員はこれらを遵守することを基本としています。

内部統制推進の最高責任者はCEOとし、その推進においてCEOを補佐するため、コンプライアンス本部を設置するとともに、取締役会は事業環境や社会的要請の変化、法規制の改正、リスクの多様化等に応じて内部統制システムの整備に関し、継続的に検討を重ね、毎年1回その他必要に応じて見直しを行います。

- 5 基幹システムの停止・動作不良や情報漏えい等のITリスク
- 6 契約の不備、知的財産権の侵害等に起因する訴訟リスク
- 7 ESH(Environment Safety & Health: 環境・安全・健康)に関するリスク
- 8 PL(Product Liability: 製造物責任)を含む品質に関するリスク
- 9 その他、取締役会が極めて重大と判断するリスク

また、グループ責任・権限規程の遵守・徹底を通じて、意思決定の妥当性・合法性を確保し、リスクの管理を行います。

さらに、事故、災害および重要な品質問題発生時の報告要領を社内規程に定め、それに基づく有事の際の迅速かつ適切な情報伝達および緊急対応態勢を整備しております。

なお、モニタリングに関しては、内部監査部門をはじめ本社専門スタッフが、業務上のリスク管理状況を横断的に監査し、業務改善に関し必要かつ適切な助言を行っています。

## コンプライアンスの実践と徹底

グループ全体がより高い倫理感に根ざした企業行動をとるため、2005年4月、「ナブテスコグループ企業倫理綱領」および「ナブテスコグループ行動基準」を制定し、企業倫理の実践と徹底に努めています。

### ■ナブテスコグループ企業倫理綱領

ナブテスコグループでは、事業活動を行う時の基本動作、企業目的を遂行する上での注意事項を理念的に「企業倫理綱領」として纏めています。

1. 価値ある商品・サービスの提供
2. 経営の透明性の確保
3. 公平・公正な企業活動
4. 地域・社会への配慮
5. 環境への配慮
6. 社員への配慮
7. 誓約

コンプライアンス専任部門であるコンプライアンス推進部が中心となり、グループの中長期的な企業価値の向上を目指して、法規制の遵守はもとより、より高い基準の企業倫理規範の遵守を推進しています。

### ■ナブテスコグループ行動基準

ナブテスコグループでは、企業倫理と法令遵守の観点から、一人ひとりの判断基準を「行動基準」として纏めています。

1. 基準の趣旨および適用範囲
2. 総則
3. 企業活動について
  - ①安全・安心・快適の追求 ②環境を守るために ③公正・自由な取引を維持・促進するために ④仕入先・協力先との取引について ⑤輸出入取引について
4. 株主・投資家との関係
  - ①企業情報の開示 ②インサイダー取引の禁止
5. けじめある、誠実な行動
6. 情報の適正な管理
  - ①さまざまな情報を正しく管理・活用するために ②知的財産権の保護

## コンプライアンスの啓発活動

### [ 企業倫理月間 ]

2011年度から国内のナブテスコグループを対象に毎年10月を「企業倫理月間」と定め、経営トップのリーダーシップのもと、全社員がコンプライアンスの意識を持って行動するよう求めました。初年度は、CEOメッセージの配信や告知ポスターを掲示するとともに、各職場でもコンプライアンスミーティングやコンプライアンス宣言を策定するなど、総計4,079名が参加し、コンプライアンス活動を展開しました。

### [ e-ラーニングによるコンプライアンス教育 ]

2011年度から新たにe-ラーニングによる教育に取り組みました。本年度は、輸出業務に関する「安全保障貿易管理」と取引先への業務委託に関する「下請法」の2つに関して行い、多くの社員が受講し、高い修了率が得られました。

教材内容	結果	受講者数	修了者数	修了率
安全保障貿易管理		658名	535名	81%
下請法		134名	126名	94%

### [ コンプライアンス意識調査 ]

コンプライアンス意識の浸透をモニタリングすることを目的に、2006年以降、国内グループ会社社員を対象に意識調査を行っています。調査を重ねるごとにコンプライアンスの理解度が高まってきており、4回目となる今回は2012年に行います。

### ■コンプライアンスミーティング風景



### ■コンプライアンス宣言



### ■e-ラーニング画面

**2. 下請取引の範囲**

①取引当事者の資本金区分

<取引形態>

- ・物品の製造、修理委託
- ・プログラム作成委託
- ・情報処理業務
- ・運送、物品の保管(倉庫)

【親事業者】

- 資本金 3億円超
- 資本金 1千万円超 3億円以下

【下請事業者】

- 資本金 3億円以下
- 資本金 1千万円以下

<取引形態>

- ・役務提供委託
- ・プログラム以外の情報成果物(カタログ等)の作成委託

【親事業者】

- 資本金 5千万円超
- 資本金 1千万円超 5千万円以下

【下請事業者】

- 資本金 5千万円以下
- 資本金 1千万円以下

### [ 国内グループ会社でのコンプライアンス研修 ]

2011年7月から8月の期間で、国内のグループ会社にてコンプライアンス研修を行いました。グループ会社10社、総計825名の社員が参加し、コンプライアンスに関する知識の習得および企業倫理綱領・行動基準の内容の理解に努めました。今後も、グループ全社員一人ひとりの具体的な行動に繋げるためにも研修などを通じて推進していきます。

### [ BCPの展開 ]

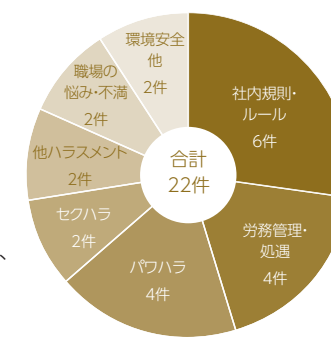
事業継続計画(BCP)とは、企業が災害や事故などの緊急事態発生時に、事業活動を中断させないようにするかまたはたとえ中断しても短期間で復旧させ、中断に伴う企業価値の低下を防止

## 内部通報制度

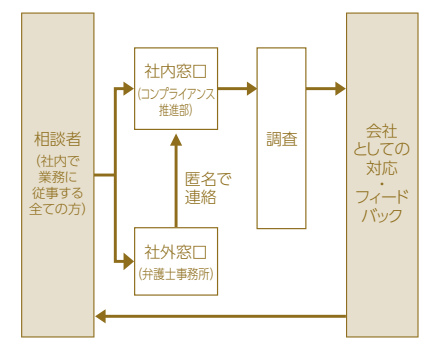
法令違反ないし不正行為による不祥事の防止および早期発見、組織の自浄機能の向上、風評リスクのコントロールならびに社内的信頼の確保のために、ナブテスコ「ほっとライン」を設置しています。

窓口を、ナブテスコ社内の他に弁護士による社外にも設け、ナブテスコおよび国内のグループ会社で業務に従事する全社員(役員、正社員、派遣社員、パートタイム等)が利用することができます。利用においては、専用の電話・電子メールまたは書信のいずれかの方法で行います。

### ■2011年度ほっとライン受付状況(内容別分類)



### ■ほっとラインのフロー



## 海外グループ会社での取り組み

### [ 中国でのコンプライアンス活動 ]

2011年10月、現地法人会にて、中国でのコンプライアンス活動について現地スタッフとの活発な意見交換を行いました。事業の中国展開が急速に進んでいる状況のもと、コンプライアンス活動も求められてきており、現地法人と一体となって取り組んでいきます。

### ■海外グループ会社向け企業理念・ナブテスコの約束・企業倫理綱領の冊子(左から中国語、英語、タイ語表記)



### [ 海外グループ会社における潜在リスクの調査 ]

2011年度は、中国グループ会社を対象に、潜在リスクの調査を行いました。これは、事業活動に損失を与える可能性があるリスクについて、発生頻度と発生時の影響度の観点から重要度を区分し、特に重大と思われるリスクについては対応策を策定しリスクの軽減・発生防止に努める活動で、引き続き2012年度はタイ・グループ会社へも調査を展開していきます。

### ■中国現地法人会での打合せ風景



# 企業情報

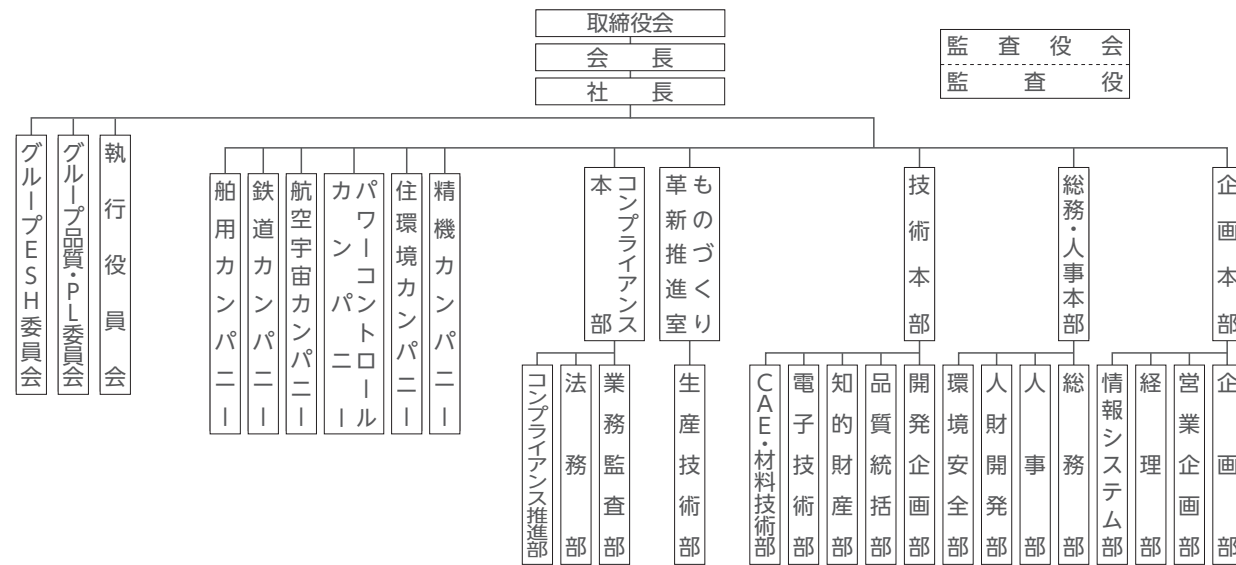
## 会社概要 (2012年3月末現在)

会社名	ナブテスコ株式会社
英文社名	Nabtesco Corporation
設立	2003年9月29日
所在地	〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目7番9号 TEL:03-5213-1133(代表) FAX:03-5213-1171
資本金	100億円
発行済株式の総数	127,212,607株
従業員数	単体 2,020人 連結 4,995人
連結子会社	国内:13社(他、持分法適用会社:6社) 海外:28社(他、持分法適用会社:2社)

## 役員構成 (2012年6月末現在)

取締役会長	松本 和幸	監査役	高橋 信彦
代表取締役社長	小谷 和朗	監査役	今村 正夫
代表取締役専務取締役	坪内 繁樹	社外監査役	石丸 哲也 (非常勤)
常務取締役	三代 洋右	社外監査役	山田 正彦 (非常勤)
常務取締役	今村雄二郎	社外監査役	三谷 紘 (非常勤)
取締役	青井 博之		
取締役	坂本 勉		
取締役	長田 信隆		
社外取締役	藤井 晃二 (非常勤)		
社外取締役	山中 信義 (非常勤)		

## 事業運営体制 (2012年6月末現在)



## 沿革

2002年 4月	帝人製機株式会社、株式会社ナブコ、油圧機器事業に関する業務提携を開始
2003年 9月	帝人製機・ナブコを完全子会社とする持株会社「ナブテスコ株式会社」設立 東京証券取引所(市場第一部)に上場
2004年 10月	帝人製機・ナブコを吸収合併、事業持株会社へ移行
2008年 2月	タイにNabtesco Power Control(Thailand)Co.,Ltd.を設立 (油圧ショベル用走行モーターの製造・販売)
2009年 12月	ナブテスコオートモーティブ株式会社を設立(自動車関連機器の製造・販売・サービス)
2011年 1月	中国に江蘇納博特斯克今創軌道設備有限公司を設立(鉄道車両用機器の製造・販売)
2011年 4月	スイス・KABA社より自動ドア部門を買収、Gilgen Door Systems AGを設立
2011年 10月	中国に江蘇納博特斯克液圧有限公司を設立(油圧ショベル用走行モーターの製造・販売)

## GRIガイドライン対照表

指標	開示ページ
<b>1. 戦略および分析</b>	
1.1 組織にとっての持続可能性の適合性とその戦略に関する組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	3
1.2 主要な影響、リスクおよび機会の説明	22
<b>2. 組織のプロフィール</b>	
2.1 組織の名称	25
2.2 主要なブランド、製品および/またはサービス	5-6
2.3 主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの、組織の経営構造	25
2.4 組織の本社の所在地	25
2.6 所有形態の性質および法的形式	25
2.7 参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客/受益者の種類を含む)	5-6
2.8 以下の項目を含む報告組織の規模 ・従業員数 ・純売上高(民間組織について)あるいは純収入(公的組織について) ・負債および株主資本に区分した総資本(民間組織について) ・提供する製品またはサービスの量	25
<b>3. 報告要素</b>	
3.1 提供する情報の報告期間(会計年度/暦年など)	1
3.4 報告書またはその内容に関する質問の窓口	1
3.6 報告書のバウンダリー(国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー(供給者)など) *詳細はGRIバウンダリー・プロトコルを参照のこと	1
3.7 報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項を明記する	1
3.12 報告書内の標準開示の所在場所を示す表 以下の項目を検索できるように、ページ番号またはwebリンクを明らかにする ・戦略および分析 1.1~1.2 ・組織のプロフィール 2.1~2.10 ・報告要素 3.1~3.13 ・ガバナンス、コミットメントおよび参画 4.1~4.17 ・カテゴリごとのマネジメント・アプローチの開示 ・中核パフォーマンス指標 ・盛り込まれているGRIの追加指標 ・報告書に盛り込まれているGRIの業種別補足文書の指標	26
3.13 報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する	18
<b>4. ガバナンス、コミットメント、および参画</b>	
4.1 戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造(ガバナンスの構造)	22
4.2 最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す(兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す)	22
4.3 単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび/または非執行メンバーの人数を明記する	22
4.4 株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム 以下のプロセスへの参照を盛り込む ・少数株主が最高統治機関に意見を表明するための株主決議またはその他のメカニズムの利用 ・組織レベルの「労使協議会」などの正式な代表組織および最高統治機関内の従業員代表との、職務上の関係についての従業員への通知および協議	9,12
4.6 最高統治機関が利益相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	22
4.8 経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション(使命)およびバリュー(価値)についての声明、行動規範および原則 以下の項目についての程度を説明する ・組織全体を通じて、異なる地域および部署/ユニットでどの程度適用されているか ・国際的に合意された基準にどの程度関連しているか	3,23
4.9 組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む	22
4.11 組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	22
4.16 種類ごとの、およびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	9,12
<b>5. マネジメント・アプローチに関する開示とパフォーマンス指標</b>	
<b>【経済】</b>	
EC6 主要事業拠点での地元のサプライヤー(供給者)についての方針、業務慣行および支出の割合	21
<b>【環境】</b>	
マネジメント・アプローチ	
目標とパフォーマンス	17,19

方針	14
組織の責任	14
研修及び意識向上	15
監視及びフォローアップ	15
<b>パフォーマンス指標</b>	
EN5 省エネルギーおよび効率改善によって節約された総エネルギー量	17
EN8 水源からの総取水	19
EN16 重量で表記する、直接および間接的な温室効果ガスの総排出量	18
EN18 温室効果ガス排出量削減のための率先取り組みと達成された削減量	17
EN20 種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	19-20
EN22 種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	19
EN23 著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	20
EN26 製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取り組みと、影響削減の程度	16,18
EN28 環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	20
EN29 組織の業務に使用される製品、その他物品および原材料の輸送および従業員の移動からもたらされる著しい環境影響	16
<b>【労働慣行と公正な労働条件】</b>	
マネジメント・アプローチ	
方針	10
組織の責任	10,15
研修及び意識向上	10
監視及びフォローアップ	10,12,15
<b>パフォーマンス指標</b>	
LA1 雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力	11-12
LA2 従業員の総離職率の年齢、性別および地域による内訳	11-12
LA3 主要な業務ごとの、派遣社員またはアルバイト従業員には提供されないが正社員には提供される福利	10-12
LA4 団体交渉協定の対象となる従業員の割合	12
LA7 地域別の、傷害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合および業務上の総死亡者数	10
LA8 深刻な疾病に関して、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている、教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	10
LA9 労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	12
LA11 従業員の継続的な雇用適性を支え、キャリアの終了計画を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム	11,13
LA13 性別、年齢、マイノリティーグループおよびその他の多様性の指標に従った、統治体(経営管理職)の構成およびカテゴリ別の従業員の内訳	11-12
<b>【人権】</b>	
マネジメント・アプローチ	
方針	10
組織の責任	10
監視及びフォローアップ	24
<b>【社会】</b>	
マネジメント・アプローチ	
方針	23
組織の責任	23
研修及び意識向上	23-24
監視及びフォローアップ	23-24
<b>パフォーマンス指標</b>	
SO4 不正行為事例に対して取られた措置	24
<b>【製品責任】</b>	
マネジメント・アプローチ	
方針	7
組織の責任	7
<b>パフォーマンス指標</b>	
PR1 製品およびサービスの安全衛生の影響について、改善のために評価が行われているライフサイクルのステージ、ならびにそのような手順の対象となる主要な製品およびサービスのカテゴリの割合	7-8
PR3 各種手順により必要とされている製品およびサービス情報の種類とこのような情報要件の対象となる主要な製品およびサービスの割合	7-8
PR6 広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準および自主規範の遵守のためのプログラム	7-8
PR8 顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレームの総件数	7-8

会 社 名	ナブテスコ株式会社	
英 文 社 名	Nabtesco Corporation	
設 立	2003年9月29日	
所 在 地	〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目7番9号 TEL:03-5213-1133(代表) FAX:03-5213-1171	
営 業 所	名古屋営業所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-28 名古屋第2埼玉ビル9F TEL:052-582-2981 FAX:052-582-2987
	神戸営業所	〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町1-3-3 神戸ハーバーランドセンタービル16F TEL:078-367-1320 FAX:078-367-1321
	北九州営業所	〒802-0002 福岡県北九州市小倉北区京町3-14-17 五十鈴ビル TEL:093-531-5454 FAX:093-521-4846
生 産 工 場	岐 阜 工 場	〒503-2192 岐阜県不破郡垂井町宮代1110-1 TEL:0584-22-3121 FAX:0584-23-1534
	垂 井 工 場	〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町1414 TEL:0584-22-2111 FAX:0584-23-1532
	津 工 場	〒514-8533 三重県津市片田町耆町田594 TEL:059-237-4600 FAX:059-237-4610
	神 戸 工 場	〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台7-3-3 TEL:078-993-0300 FAX:078-993-0330
	甲 南 工 場	〒658-0024 兵庫県神戸市東灘区魚崎浜町35 TEL:078-413-2531 FAX:078-413-2543
	西 神 工 場	〒651-2413 兵庫県神戸市西区福吉台1-1617-1 TEL:078-967-1551 FAX:078-967-1206

**ナブテスコ株式会社**  
[www.nabtesco.com](http://www.nabtesco.com)